



山岳通信の原点

近藤善則

例会後の懇親会での酒の勢いでの話ですが

AGC ではアマチュア無線の資格を持つ方が多くいます。携帯電話も繋がらない山岳地域では無線機による連絡は唯一の通信手段で、非常時には大活躍しますが、電池切れなどのトラブルに見舞われる事も多く、近代的な最新式の機器も電源が無ければ全く只の物体・無用の長物になりかねません。携帯電話・GPSもかしこり。こんなときどのような手段を考えますか？ というような話から昔はどのような方法で情報を伝えていたのだろという話題になり、手旗、烽火(のろし)、太陽光の反射などが挙げられました。

現代においてどのくらい有用な手段なのだろう。山口正著「山の地形図」(*1)には回照器(リトプ)という光の反射を利用して三角点間の測量を行っていたと述べられていて、数日かけて漸く目的地に立ち、何キロも隔てられた先からの光を待っていたがなかなか届かないので、再び数日かけてどうしたのか見に行ったら、櫓から落ちて死んでいた というような記述があり、初期の測量がいかに困難な事業だったかを知ることができるが、もっと昔でも光や煙で情報を伝えていた事が歴史の教科書にでていた。烽火(のろし)は狼煙とも書くが、中国では狼の糞を燃やしていたことから付いた漢字だそう。戦国時代の武田軍はこの烽火によって躑躅ヶ崎の館から信州の出城へ数時間で情報を伝達したそう。おそらく煙の色や燃やす間隔である程度の情報が伝わるのだろう。

筆者の信州の仕事場の近くに信玄の時代の烽火台の遺跡(外山城)があり、毎年のろし通信のイベントが催されている。普段閑散としている場所もこのときは大勢の見物客が来ている。ドラム缶で松の枝を燃やして煙を出し、千曲川を隔てた対岸の城跡(祿津城)からも同時に行き、お互いに煙の昇るのを確認するだけの他愛も無い行事だが、結構楽しんで行っている。だがこれに拠って数種類の情報を伝達するにはかなりの技術が必要のように感じた。



さて酔った勢いは続く

「試してみないか?」「何事も実践だよ...」「三角点間で素朴な方法での通信を」「太平洋側から日本海側へ...」だんだん話が盛り上がり具体的な方法も飛び出す。「煙は無理だから太陽光の反射で行こう」「この山頂とあの山頂で同時に行おう」「晴ればかりとはかぎらないから、幕営が必要だよ」等々から「AGCらしい企画だね」「やってみる価値があるんじゃない?」という意見。多少のアルコールはかくも頭を柔軟にし、アイデアが閃くものなのか・・・

翌日、冷静になって考えてみるが、まったく無意味な事とも思えず、色々な意味で少し本気で企画してもいいのでは思った。どの様な方法だとどのくらいの距離間で可能なのか? AGCのメンバーが中央アルプスと埼玉間や富士山と東御市間での無線連絡が可能との報が入り、ますます現代技術との比較をしてみたくなった。
(2008/1/9 近藤)

(*1) AGC では山口正著「山の地形図」の復刻版を一昨年作成しました。現在残部数はありませんが御希望の方が程度までとまれれば増刷可能です。戦時中の国威掲揚のものですが内容はたいへん参考になります。

連載 ゆにーく 標識&標石 幸せな四等三角点 福岡県庁前



一等三角点であれば解説板などが存在するところもあるが、二等、三等になると解説板などは見かけない。

ところが福岡県庁前にある「亀山上皇像」のそばの三角点は四等(点名「福岡県庁」標高4.4m)ながら立派な「測量標」と言う解説碑がある。他の多くの四等三角点からすれば過保護で幸せな三角点ではないだろうか。

(遠山記)

行ってきました

雪の伊豆ヶ岳へ 地形図の調査と読図研修

1月10日、地形図の調査と読図研修を兼ねた山行を伊豆ヶ岳周辺で行いました。参加者八名で無事終了しましたが、低気圧が発達したため山中は暴風と昨日の雪が舞い、冬山そのものでした。稜線上は風雪が酷く昔の冬山合宿を思い出すほどの状況でした。



雪の伊豆ヶ岳山頂付近

写真を見れば判りますように、空は晴れていて風が強いので雪が飛ばされてくるのであって、それも山頂と鞍部付近が特別すごい状況でした。関東平野は見えていました。そして標高600mぐらいから上にならないと雪がなく、それも積雪量が少ないため踏み跡は判りますし、とにかく実行してきました。

AコースとBコースに分かれて行動しましたが、両コースとも地形図上に誤りがあるのを確認できました。

どうもわれわれクラスのGPSでは無理があることがわかりました。ちょっと谷に入るとスキップしたり暴走しました。(遠山記)

図書・資料の紹介

最新通信機器の使い方 岳人2009年2月号「特集脱・ピギナー宣言 雪山への路」の中で携帯電話、アマチュア無線、GPSについての記事があります。AGCの遠山氏が無線家として取材協力したそうです

また、同誌では山岳映画特集のなかで、今年6月に公開予定の「劔岳 点の記」が詳しく取り上げられています。地図製作のための登山の様子がかなりリアルに描かれているとの内容

行きましょう

フォーラム「登山を楽しむための科学」 科学委員会主催 稜線で雷にあったときにどうすれば良いか、ハチやヒルに刺されたらどうすれば良いか、どんな呼吸法が楽であるか、現代の快適な衣類はなにか、ストックがあれば楽に登れるか、山で見る植物を知っているとこんなに楽しい、といったことを取り上げる。例年のシンポジウムとは一味違う内容です。北野代表も講演されますので気軽に参加してください。

平成21年2月28日(土)13時~17時

場所: 日本工業大学神田キャンパス多目的ホール(千代田区神田神保町2-5 TEL 03-3511-7592 **参加費:** 500円(但し資料代)(平野記)

2008年度会計報告

昨年度の会計を報告いたします。

2009/1/7

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越	63,120-	AGCレポート特別号制作費	59,597-
会費(2007年以前4名分)	8,000-	通信費(切手)	17,600-
会費(2008年28名分)	5,500-	事務用品	1,503-
レポート(特別号)売上	3,600-	雑費	1,366-
		交際費(中村氏祝賀会参加)	10,000-
		2009年度繰越	39,654-
合計	129,720	合計	129,720

上記相違ありません 会計担当

会費未納の方は下記に振込みください

2009年度は 1,000円/年です

ゆうちょ銀行 記号:10130 番号:12841191

名義:タカハシ モトコ

(高橋素子)

例会の議事録

1月定例会記録

2009年1月7日(水) 19:00~19:45 於JAC 集会室B

出席者13名(北野 平野 近藤 遠山 鶴田(泰) 半田 半田 高橋 森合 大西 川口 加藤 今井(順不同))

内容: 1月10日予定の伊豆ヶ岳を中心とする地形図調査のテストと読図研修上級編について説明。調査要領書、地図等配布(遠山) 2007年会計報告。報告書はAGCレポート2月号と同送する。(高橋) 2月28日(土)に科学委員会主催の講習会がある。衣類の発熱素材や雷発生などが予定されている。詳細は月間「山」の次号に掲載される。是非参加されたい。(平野) 終了後は「鯨の家」にて懇親会(13名)。以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 **2009年2月4日(水)** 18:30 から 於: 山岳会 ルーム

テーマ: 地形図調査山行報告(地図研修)ほか

編集後記

地形図調査の山行では、思いがけない吹雪に見舞われ参加された方はいへんご苦労さまでした。問題点も幾つかみつき、有意義な山行だったと思います。同日、昨年末 中央アルプスで遭難死した森 啓さんのお別れ会があり 仕事と趣味に精力的に活躍していた知られざる一面を知り、早すぎる死をあらためて悼む思いでした。(kon)

AGCレポート vol-20 2009年1月28日発行

発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com